令和6年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
43	川崎市立 今井小学校	梶　康子

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
自ら学び、心豊かにたくましく　生きていく児童の育成をめざして ーやさしく　たのしく　たくましくー	○確かな学力ときめ細かな指導　○豊かな心と思いやり ○健やかな体　○安全・地域

	評 価 項 目	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
①確かな学力ときめ細かな指導	○基礎・基本的な内容の確実な定着を図る個別最適な学びと共同的な学びの実現	「令和の日本型学校教育」に基づいた「自立した学習者」を育て上げるために、「個別最適な学びと協働的な学び」の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を通した授業改善の推進をしていく。各教科の中で基礎・基本的な学習の定着を一層図りながら、児童自らが主体的に考え、判断し、表現できる力や、各教科を通して「目指す子ども像」を見据えた資質・能力を育んでいきたい。	川崎市学習状況調査や全国学力学習状況調査の結果を分析し、本校児童の実態を把握した。結果から見えてきた課題を踏まえ、児童が主体的に学ぶための学習指導の在り方を模索した。算数科地区研究授業を引き受けたり、拡大要請訪問を申請したりしたことで、外部の先生方から具体的なアドバイスを受けることができたので、授業改善に結び付けていくことが課題となった。	昨年度から、2年続けて教科を絞らずに校内研究を進めてきたが、提案される教科が様々だったため、成果や課題について具体的に話し合うことが難しかった。そこで、来年度は、教科を絞り、共通の土台に立って授業改善について話し合いを進めていく。
	○授業改善・かわさきGIGAスクール構想の充実	授業づくりでは指導者がファシリテーターとなり、GIGA端末を有効活用したり児童同士の対話を通した学びを深めたりして児童とともに創り上げていきたい。指導者だけでなく、児童も課題までの道筋を自ら描くことができるような授業づくりをしていきたい。「かわさきGIGAスクール構想」には、本校の特性に合った活用方法を見直し、改善しChromebook(GIGA端末)の教育効果を高められるように研究を進めていく。	拡大要請訪問では、様々な教科の授業公開を通して、今、今井小学校の教員が抱える指導の在り方の課題が見えてきた。相対的に学力が高い児童が多いため、発言力のある児童の意見で授業が進んでしまう傾向にあるという課題を真摯に受け止め、躓きのある児童への支援やどの子も思考力を発揮しなくてはならないような授業を目指していく。	次年度は、教科を絞って校内研究を進めていく中で、教師主導型にならない授業の在り方を学んでいく。2学年ずつ授業公開していた校内研究の在り方を1学年毎とし、経験の浅い教員もじっくりと他者の指導方法から学べるようにしていく。また、他校の実践を進んで学ぶ機会を取り入れていかれるよう、小教研等への参加について声をかけていく。
	○読書活動の充実	人生を豊かにする読書に児童が慣れ親しむためにも、様々な機会をとらえて読書活動を支援するとともに、良い本と出あえる読書環境の充実を図る。読み聞かせによる本の楽しさを広げ、想像力豊かな児童を育てたい。また学校図書館の整備と活用、情報活用能力の育成もしていきたい。	本年度も毎週木曜日朝に読書タイムを設定し、本に触れ合う時間を確保した。また図書ボランティアによる親しみを感じられる読書活動が子どもたちに人気があり、読書への興味関心を向上させている。	来年度も教育課程に読書の時間を確保していく。図書館司書の力を借りて、各クラスに常設している学級文庫の入れ替えを行ったり、図書室の蔵書を児童や教師の要望を生かして増やしていったりしていく。
	○校内研究を通したコミュニケーション能力・言語活動の充実	児童のこれからの人生において必要なコミュニケーション能力の育成を学校生活全般で図るとともに、校内研究を通してコミュニケーションを行うために不可欠な言語能力の向上を目指して支援をしていく。	今年度は、国語、生活科、算数等、授業提案された教科の専門家に講師を依頼したことで、より有効な授業改善のヒントを得ることができた。次年度も引き続き、授業力向上に直結する授業改善をめざし、効果的な校内研究を進めていく。	教科を絞って校内研究を進めていくことで、児童に身につけさせたい資質能力の学年に応じた系統性も具体的に示していくようにし、成果と課題を明確にしながら取り組みを進めていく。
②豊かな心と思いやり	○一人の子も見捨てない教育実践と児童理解・支援の充実	一人ひとりの人権(LGBTQも含む)に配慮し、日ごろから様々な方法により(かわさき共生・共育プログラムによる効果測定等)児童理解を進め、子どもが安心して過ごすことができる学校を目指す。また、支援教育コーディネーターを中心として、全教職員が教育的ニーズに応じた支援・指導ができるような体制の充実にも力を注いでいく。児童の健やかな成長を常に基盤に据え、家族・地域社会・関係機関との密接な連携の基に、子どもの人権尊重と慎重な配慮で適切な指導に努める。	今年度は、年間を通して計画的に特別支援教育についての研修を実施した。支援教育Coを中心に計画を立て、校内からだけでなく特別支援教育センター指導主事や通級指導教室のセンター的機能を使った講師などからの指導を受けたことで、どのクラスにもいる支援を必要とした児童への対応の仕方を学ぶことができた。また、教室に入れない児童のためのサポートルームを開室したことで、居場所のなかった児童たちへの支援を進められるようになった。	来年度も一人の子も見捨てない教育実践を取組んでいきたい。教職員一人一人が子どもを愛おしいと思う気持ちや教える楽しさなどを抱きながら指導できるような学校づくり(学校風土や研修企画実践)をしていきたい。そして教職員一人一人が人権意識を高め、子どもと家庭、地域と一緒に学校を創り上げるという意識をもたせたい。
	○支援教育Coを中心とした特別支援教育の充実	インクルーシブ教育を目指し、知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由等の児童に対する理解を深め、学校としての全体的・総合的な支援体制をさらに充実させる。また、関係諸機関との連携を図り、担任や保護者からの教育相談をもとに必要に応じて会議を開き協議する。それらを日々の支援に生かすことを目指す。	全教職員がインクルーシブ教育を意識しながら、取り組んでいたと思う。各クラスで担任が合理的配慮を行いながら授業を進め、常に支援教育Coと連携を図りながら指導に当たった。保護者から寄せられる様々な相談にも真摯に取り組み、成果を上げていた。	本年度の実績を基にインクルーシブ教育推進に向けての課題を一つ一つ解決していけるように、全教職員で研修を積んでいきたい。併せて個に応じた合理的な配慮についてアイデアを出し、校外の機関とも連携を図りながらそれぞれのケースに真摯に取り組んでいく。
	○自己肯定感の育成と明るい挨拶の励行	様々な機会をとらえて児童の規範意識の向上に努め、児童の心に夢と希望があり続けるように支援・助言等を日常的に行う。全教職員で児童を信じ認め、励まして児童の自己肯定感を育成したり、自己有用感を高めたりしてよりよく生きようとする意欲を養う。 明るい挨拶や今井帽の着用を励行する。特に挨拶には重点的に指導を継続していく。	子ども一人一人の自己肯定感を高めるために、学校生活の様々な場面で子どもが主役の学校づくりを意識して取り組んできた。学年に応じたやり方で、各種実行委員制を取り入れ、みんなのために活躍することができた経験を通し、自己有用感や自己肯定感を高めることにつながった。挨拶に関しては、朝の挨拶のみならず、人と人とがかかわる中で生じる様々な場面での挨拶を意識できるよう引き続き指導していく。	来年度以降も子どもが主役の学校づくりを意識して指導してほしいと考えている。そのためには、教職員一人一人が自覚を持ち、チームとして同じ方向を向いて健やかな子どもを育てる取組みを進めていきたい。明るく気持ちの良い挨拶については、その在り方を子どもたちとともに考えていく。
	○道徳教育・心と命を育む教育実践の充実	豊かな人間性の育成は道徳教育にある。職員一人一人がその意識をもって道徳教育に当たり、児童の道徳的実践力を高める。 人との関わりを大切にした授業実践や一人ひとりが輝く学校行事での活動等を通して、思いやりの心や感動する心の育成を図り、夢や希望をもって生きる、命のかけがえのなさを理解し、自他の心や命を大切にする児童を育む。	各クラスで毎週しっかりと道徳の時間を設定し、道徳教育を進める中で、日常的に道徳的実践力が育つように指導を繰り返したことで、思いやりのある子どもたちが育ってきているように感じる。授業を通して身についた道徳心を日常の生活の中でも発揮できるよう支援していきたい。本年度も外部講師に依頼し、命の授業を実施することができた。	道徳授業の終末では、常に自分自身の生き方、考え方に立ち返るような問いかけができるようにしていく。自分自身の変容を自覚できるような学習の振り返りを大事にしていく。来年度も命の授業では、外部講師にお願いするだけではなく、常に命の大切さについて子どもたちに伝えていきたい。

③健やかな体	○基本的生活習慣の育成、確立	学校と家庭での連携をもとに、児童の基本的生活習慣のさらなる育成に努める。児童が日々の生活の中で、望ましい行動をとるように、継続していくように職員が意識をもって児童に接する。	スピードは誠意の精神で、学校での出来事で気になることがあった時には、速やかに保護者に報告し、家庭と学校とが共通理解のもと児童指導に当たれた。経験の浅い職員もいるので、学年経営という視点で児童理解・指導に当たっていきたい。	全職員が共通理解のもと指導や支援に当たれるよう、スタンダードとなる今井のやくそくを大人の目線だけでなく、児童の意見も入れながら常に見直していき、保護者にも協力を仰いでいく。
	○体育学習等の充実による基礎体力の向上	子どもたちが自らの健康や体力に関心がもてるよう、発達の段階を考慮した体育学習や健康に関する指導を充実させる。また日常的に運動に親しむ機会の設定し児童の基礎体力の向上を図る。	本校では骨折や捻挫、筋肉痛などの症状を訴える児童が多いと感じている。日頃の運動不足を解消できるよう、体育の時間だけでなく、休み時間の過ごし方やキラキラタイムの在り方も見直していく。	来年度も基礎体力を養うために、キラキラタイムや運動に親しむ集会等を増やし、体力向上を目指していく。かわさきTEKTEKで購入したミニトランポリンも有効に利用していく。
	○健康・安全指導の充実 と食育の実践	学校教育全般、健康安全指導を通して、自分の体は自分が作り守っていく意識と実践力を高めていく。 食育を通して児童の健康な体づくりへの取り組みとして、担任と栄養士（栄養教諭、学校栄養職員）による食育の実践をする。教職員で食物アレルギーの理解や日常の食生活の見直し、改善を呼びかける。また、朝会や学級活動等で食文化についても伝えていきたい。	食育では低学年を中心に「朝食の大切さ」や「いろいろ食べよう」等を伝えた。1年生には、栄養職員が講師として授業を行ったことで、より理解が深まった。 アレルギーを持っている児童への対応では、年度当初に面接を行い、事故が起きないように対応するとともに、万が一起きてしまった場合に適切に対処できるような工夫も行うことができた。	来年度も4月当初に「食物アレルギー」研修を実施していく。今年度取り組んだクラスでの対応の仕方について、全職員で共通理解を図っていく。 また、各学級での取り組みに差が生まれないよう、年度当初に併せて、栄養職員が中心となって給食指導方法の研修を行い、スタンダードの指導を徹底していきたい。
④安全・地域	○防災教育等、安全教育の充実	防災組織や学校安全に係るマニュアルをさらに充実させる。総合的な防災・安全対策、危機管理への意識を高め、避難訓練等の実践を通してさらに安全を担保できる児童の育成を図る。	本年度は、防災マニュアルの見直しを図り、不明瞭だった点を改善することができた。また、水害に向けた垂直避難についての訓練や不審者対応の訓練を計画し実施できた。様々な災害に対する訓練が年間を通して計画的にできていなかったので、次年度は年間を見通して計画を立てていく。	本年度見直した防災計画を4月に全職員で確認し、有事の際には的確に動ける準備をしていく。避難訓練は子どもたちに自分の命は自分が守る意識をもたせ、あらゆる状況でも安全な判断ができるようにしていきたい。
	○熱中症対策と環境の整備	過去の事故を忘れず児童の安全を確保し、学校や保護者・地域、川崎市に対する信頼感回復に努めていく。「熱中症から児童を守る」という決意をもって、熱中症を起こさない環境整備を整え、職員が団結して安全・安心な教育活動を展開していく。	熱中症対策を含め、子どもの命を守る取組をしてきた。本年度もWBGT28の基準値を全教職員に周知して徹底した。子どもの安全安心を第一に考えた教育活動が実践できた。校外学習の折には、予備のペットボトル持参が定着し、現地で体調不良者を出すこともなかった。	来年度以降も本校では、熱中症指数のWBGT28の基準値は遵守し、徹底して熱中症対策を講じた教育課程を創っていきたい。体育のカリキュラムの見直しを図り、安全に授業が実施できるよう計画していきたい。
	○学校webなどによる積極的な情報発信	学校web等を始めとする様々な媒体、機会をとらえて、児童の様子や学校教育の上で必要な情報をタイムリーに発信するとともに、情報受信をもとに必要な対策等を速やかに打つなどして、家庭・地域等との連携を図りながら安全・安心な学校教育を目指す。	ホームページやミマモルメ等の活用で、昨年度以上に学校の発信ができ、学校力を高める一助になっていた。特に、学校HPの内容を見直し、学校便りや学年便り、入学のしおり等を掲載したことで、今まで以上に学校でと取り組みを広く知らせることができた。	来年度も学校web等を積極的に活用し、今後も家庭と地域とも連携を取りながら、子どもの安全を第一に考えた学校教育づくりに努めていきたい。
	○保護者、地域との連携	日頃より児童に関する情報等を保護者、地域と必要に応じてやり取りするなどして、児童を学校・家庭・地域の3者で共通理解のもと、見守り育てていくようにする。	子どもの安全を第一に考え、地域・保護者との連携を密にして安全教育ができつつある。ミマモルメを効果的に活用することもできた。	保護者だけでなく、施設開放利用団体にもミマモルメの登録をお願いした。次年度は、学校運営協議会委員さんにもミマモルメの登録をお願いし、緊急事態の時には速やかに連絡できるようにしていく。
	○地域や幼保小の連携 小小・小中との連携	地域にある幼稚園・保育園等との連携を密にし、幼児教育と小学校教育の架け橋を意識した児童指導・学習指導を心掛ける。近隣の小学校同士の関りや中学校との連携も積極的に取り組んでいく。	近隣の幼稚園・保育園との交流は、園児を招いた交流や指導者を招いて授業を参観してもらい、その後交流会を開くなど、例年通り実施することができた。今後は、小学校側が参観するような機会を設けたい。	保育園・幼稚園側の保育計画に見合うようなスタートカリキュラムを整備していく。また、今年度大人だけの交流だった中学校との交流を授業参観等も含めて考えていきたい。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
生き生きと活動する児童の様子から、落ち着いた学校運営がされていると感じられる。毎月地域に配られる学校便りは、どうしてもタイミングが遅れて回覧されることが多いので、学校ホームページに掲載されることは、リアルタイムで学校の様子を知るためには有効だと感じる。先生方の働き方改革も大事だと感じる一方で、どのように地域とかかわりを続けていってくれるのか悩ましい問題だ。また、昨今のPTA活動の在り方も以前とは変わってきている中で、これからの地域と学校、保護者とのかかわり方はこれからの課題となっていくだろう。	学校全体では、落ち着いた一年を過ごせた。各学級には様々な課題を抱えた児童もいるが、支援教育Coを中心に、必要に応じてSCやSSW等にも協力を仰ぎ、支援に当たれたことで、改善が見られたケースも多い。基礎基本の学力の定着はもちろんのこと、今求められている主体性や協働性が児童一人一人に育めるよう、次年度も、授業改善を目指していく。また、教職員一人一人が今まで以上に心身ともに元気に子供たちと向き合っていかれるよう、時程の見直しなど、細かな部分でも業務改善を図り、大人も子供も明日も行きたくなる学校を目指していく。